

## 多田 元教授 略歴・著作目録

### 略歴・職歴

1944 年 1 月 1 日 兵庫県尼崎市に生まれる。

1967 年 3 月 一橋大学法学部卒業

#### [職歴]

1967 年 4 月 司法研修所入所

1969 年 4 月—1988 年 8 月 判事補・判事

1989 年 3 月 多田法律事務所（弁護士）

1990 年 4 月 愛知学院大学法学部非常勤講師「刑事学・少年法」  
医療事故情報センター常任理事

1995 年 10 月 一橋大学法学部非常勤講師「少年法」  
子どもの虐待防止ネットワークあいち創立・理事

1996 年 4 月 財団法人法律扶助協会愛知県支部理事

1998 年 3 月 特定非営利活動法人全国不登校新聞社創立・代表理事

1998 年 9 月 中京大学法学部非常勤講師「少年法」

2000 年 4 月 中京大学法学部非常勤講師「少年法」

2002 年 10 月 富山大学非常勤講師（集中講座・子どもの人権）

2004 年 4 月 南山大学法科大学院教授

2006 年 12 月 特定非営利活動法人子どもセンター「パオ」創立・理事長

2012 年 3 月 南山大学退職（任期満了）

## 主要著作目録

- 「勾留の必要性理論」(共著)『刑事実務の研究』所収  
日本評論社 1971 年
- 「情状鑑定論——裁判官の立場から」(共著) 上野正吉編『刑事鑑定の実務』  
所収 成文堂 1977 年
- 『少年事件の上訴』(共著) 松尾浩也ほか編『講座 少年保護』第 2 巻所収  
大成出版社 1982 年
- 「少年審判の運営」『小野慶二判事退官記念論文集 刑事裁判の現代的展  
開』所収 勁草書房 1988 年
- 「附添人の役割と活動」『自由と正義』42 巻 9 号 1991 年
- 「子どもの伴走者を志して」(共著) 津田玄児編『子どもの人権新時代』所  
収 日本評論社 1993 年
- 「少年審判における附添人の役割」(共著) 加藤幸雄ほか編『司法福祉の焦  
点』所収 ミネルヴァ書房 1994 年
- 「ホーム・スクーリングの法的課題」  
クレヨンハウス総合文化研究所編『月刊 子ども論』平成 6 年 11 月号  
1994 年
- 「少年事件の弁護はどのように行うか」(共著) 竹澤哲夫ほか編『刑事弁護  
の技術(下)』所収 第一法規出版 1994 年
- 「中学生非行と附添人活動」  
『季刊 教育法』(エイデル研究所) 101 号 1995 年
- 「少年審判と非行事実審理」(共著) 荒木伸怡ほか編『非行事実の認定』所収  
弘文堂 1997 年
- 「少年にとって必要なことは何か」  
『季刊 Forum 教育と文化』(労働教育センター) 16 号 1999 年
- 「少年にとって必要なことは何か PART II」  
『季刊 Forum 教育と文化』(労働教育センター) 22 号 2001 年

「自立援助のために——子どものパートナーをめざして」

『非行問題』（全国児童自立支援施設協議会）207号 2001年

「少年事件刑事弁護について（私の実務経験から）」

『季刊 刑事弁護』（現代人文社）29号 2002年

「メディア暴力と子ども」

『季刊 子どもと健康』（労働教育センター）71号 2002年

『少年事件報道と子どもの成長発達権』（共著） 現代人文社 2002年

「親権法の改正と子どもの虐待——子どもの自立支援・親子の関係修復」

『法律時報』83巻7号 2011年

「思春期後期の自立・社会参加の支援——子どものパートナーを志して」

公益財団法人資生堂社会福祉事業団『世界の児童と母性』72巻

2012年